

2015年度 事業計画にもとづく実施報告

1. 2015年度の事業の特徴

「事業運営の基本」について

2009年度からの「事業運営の基本」について、職員会議を中心に検討を加え、また利用者・ご家族・役職員にも広く意見を求め、2016年度から次の7項目とし、事業計画に反映した。また、中期計画は今後の課題とした。

- (1) なかまが楽しく通える、家族が安心できる場所であること
- (2) なかまの人格を尊重し、お互いの信頼関係を築くこと
- (3) なかまの望みを大切にし、その実現に努力すること
- (4) なかま・家族・支援のあり方等、職員の情報共有が出来ていること
- (5) なかまを支援する職員の人格が尊重され、将来に夢を持てること
- (6) 健全な財政運営を心がけ、環境・設備等を常に整備すること
- (7) 利用者初め、障がい者の権利等を学習・理解し、実現に力を合わせる

2. 実際の事業運営についての報告

2-1. 2015年度事業計画の基本は次の6点を掲げ、運営してきました。

- (1) これまでの経験を活かし、一層利用者のための法人・施設運営を推進します。
- (2) 「なかまふれあいまつり」の実績を生かし、今年も地域との交流を一層推進します。
- (3) 「施設増設」「利用者増への対応」に向けて、具体化を推進します。
- (4) 職員研修および福祉関連資格取得の推進等により支援・指導の向上を図ります。
- (5) 「障害者権利条約」の学習会を、利用者・家族・職員の間で実施します。
- (6) 「生活施設建設」に向けて、実現性の検討を継続します。

2-2. 特筆すべき事項について次の通り報告します。

- ① 今年度も利用者増対応のため施設増設に向けての補助申請を行ったが、選に漏れることとなり、新年度法人独自対応も課題になった。
- ② 地域交流は今年度もすすみ、「松山市市民福祉委員会の視察」2年連続での「職員福祉研修受入」、しげのお特別支援学校での講演、松山盲学校・北中学校・勝山中学校・城南高校・みなら特別支援学校・太山寺保育園との、交流/現場実習/見学、例年以上の各団体へのバザー参加、なかままつりへの久枝小/森田ダンス/愛大ダンス部/インドネシア舞踊の参加など大変な広がりを見せた。
特に「デイサービスひめ」にて支援員・利用者数名・音楽交流を行った。今後も高齢者施設を中心に交流を継続したい。

- ③ 施設開設以来のご家族の想い(利用者の置かれた歴史・現状を知る)であった「家族の話聞く会」を職員研修の一部として、6月10月3月の3回実施、職員およびご家族/役員が参加、深い感銘を受けた。また、松山市・社協などの研修にも積極的に参加した。
- ④ 「障害者権利条約」「障害者差別解消法」などの学習は、アウシュビッツの障害者虐殺などのTV放映の観賞など一部実施、なかなか時間が確保出来ず不十分となった。
- ⑤ 「清水基金」助成により、「高速カラープリンター」が導入された。「なかま後援会」の寄付もあり、新年度での飛躍を期したい。

2-3. 生活介護・就労継続支援B型の個別の運営について

それぞれの事業について次の通り運営を行って来ました。

【生活介護】

- ① 利用者の排泄及び食事等の介助、創作的活動又は生産活動の機会の提供、レクリエーションその他必要な援助を行い、身体機能又は生活能力の向上に努力しました。
- ② 日常的には散歩・清掃・買物・アルミ缶・シュレッダーなどの作業を行いながら、グループ全体で月4～5回のイベントを実施してきました。
- ③ 利用者の工賃は、「身体障がい者授産施設(通所)」として、設立された「なかま共同作業所」の伝統を重んじ、障がい者である利用者を「就労B型」と差別することなく支払うことを継続してきました。(「本人支給金」として)

【就労継続支援B型】

- ① 利用者の能力及び適正に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことが出来るよう、就労支援を行い、特に本人の就労希望職種を重視してきました。
- ② 地域の実情ならびに製品・作業の需要・供給状況を考慮し、また作業時間、仕事量及び生活時間等が利用者に過重な負担とならないよう配慮してきました。
- ③ 利用者工賃を少しでも引き上げるため、事業の見直し・選択・集中を行い売上増を図るために引き続き知恵を出して努力して行きます。
- ④ 個々の事業として、テープダビング/点字印刷/名刺・封筒印刷/製菓製造/木工品製作/外請け事業を、利用者の障がいの特性と本人希望の重視から作業支援を行ってきました。特に、外請けは「工賃」としては割りに合わないが、様々な軽作業があり就労として多様な形態が取れることもあり、施設として重視しています。

【共通】

実際の運営においては、生活介護でも利用者の特性に応じて、「就労」を希望又は可能性があれば、垣根を越えて積極的に就労支援を行ってきました。

2-4. 2015年度施設整備事業他について

- ① 2015年度、特筆すべき整備事業としては、従来から助成金申請を行って来た「理想科学工業製・ORPHIS・EX-7250高速カラーオフィスプリンタ」につき「社会福祉法人清水基金」のご理解により導入できたことです。新年度での就労事業の伸張を期します。

【総額3,758,600円:清水基金助成2,500,000円/なかま後援会寄付400,000円
/法人負担858,400円】

② 上記以外の主な施設整備につき、次の通り報告します。

③ リース対象物件につき、次の通り報告します。

月	品名・工事名等	内 容 詳 細	金額(円)
4月	厨房/移動配膳台(ステン)	利用者増への対応のため、配膳用に購入	99,800
4月	感知式照明(駐車場)	隣接土地一部駐車場として利用 事故防止のため購入	95,000
4月	製菓室/電動スライサー	現使用機経年劣化のため購入	21,700
5月通年	直管蛍光灯安定器交換	経年劣化のため、年度計9台分 今後も LED要検討	240,000
8月	エアコン15基清掃	施設開設以来の清掃作業(業者委託)	291,600
8月	備蓄用非常食料	1回目賞味期限切れのため、2回目の購入(80人分)	289,800
11月	自動カンナ	現使用機の損傷、代替機として購入	87,696
11月	プロジェクタ・スクリーン	文化・学習活動にて使用	89,000

月	契約物件	内容詳細	期間	月額	総 額
1月	ファイアーウォール	マイナンバー制度導入に伴う セキュリティ強化のため	60月	8,964	537,840
2月	電話設備更新	前設備老朽化により更新	72月	10,044	723,168
2月	食洗機更新/厨房	前設備損傷により使用不可	72月	19,440	1,399,680